

## 報告 (2) 「mobi」 の中間報告について (AI オンデマンド交通の実証実験)

令和 4 年 3 月 28 日開催の第 24 回豊島区公共交通会議において、本実証実験の実施について報告した。報告に際し、各委員ご指摘の、サービスの競合や事業の継続性への懸念について、中間報告も入れながら実証実験を進めていくこととした。

このため本日は、4 月 21 日の事業開始から 4 か月間の報告を、前回でのご意見等を踏まえ中間報告として行う。

### 1. 区の方考

豊島区の交通環境は、添付 1 のとおり、鉄道駅 500m・停留所 300mカバー圏に基づく公共交通不便地域は一部を除き存在しないが、添付 2 のとおり高齢者や障害者等の交通弱者を考慮した鉄道駅・停留所 200mカバー圏に基づく公共交通不便地域は、道路網が脆弱な木造住宅密集地域を中心に広がっている。

区は、これらの地域の公共交通を補完するため、コミュニティバス導入も含め検討してきたが、都市計画道路の未整備などで狭い道路が広がるエリアが多いことから、小型車両も含むバスの運行が困難な地域であり、新たなデマンド交通の導入も含めた検討が必要であることは、これまでの公共交通会議や豊島区議会などで報告してきたところである。

今般、狭小道路が広がり、公共交通不便地域のひとつである大塚地区において、「mobi」実証実験の提案を受けたため、実証実験を通じて、公共交通として「mobi」が区民の近距離移動を支援する事業になり得るか、また、他の交通機関と連携可能な将来的にも安定したシステムであるのか、検証することとした。

### 2. 検証について

公共交通としての「mobi」を検証するため、前回の会議での各委員の意見を踏まえ、区は以下の点を注視し、事業者へ報告を依頼した。詳細の説明は事業者より実施する。

- (1) 区民が求める公共交通としての継続性
  - ① 運賃水準(距離・時間に対し適正な料金)
  - ② 継続可能な事業収支の達成(独立採算のとれる事業か)
  - ③ 区民の評価(必要性・利便性)
- (2) 既存公共交通への影響
  - ① 既存の乗合バスやタクシー事業に対する影響

### 3. 参考(「mobi」概要)

- 【運行事業者】株式会社エコリムジン東京
- 【サービス提供】CommunityMobility 株式会社
- 【実証実験期間】令和4年4月18日～令和5年4月17日(予定)
- 【実証実験地域】大塚駅周辺地域